

観点別 内容と特色

この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

1. 教育基本法・学校教育法との関連

観点	内容と特色	該当ページ例
1 豊かな心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの豊かな心を育てることをねらいとして、児童と同世代の子どもたちが交流し成長していくストーリーで教科書を構成している。異なる文化的・人種の背景をもった登場人物の交流と成長、彼らが協力し合う姿に触れることで、豊かな情操と道徳心が培われるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体
2 友達と伝え合い、協力し合う態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 言語活動では、友達と気持ちや考えを伝え合う喜びが感じられるようにするとともに、友達のいろいろな面を発見して、他を敬愛する態度が養われるように配慮している。 ■ グループで協力しながら課題に挑戦し、伝え合ったり発表したりする活動を多く位置づけることで、友達と協力し合う態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体
3 伝統文化と他国を尊重する態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の伝統文化を尊重するとともに、5年には都道府県にゆかりのあるものをチャンツで発表する活動を設け、自分の郷土のよさに気づいてそれを愛する態度を養えるよう工夫をしている。 ■ 世界12か国の子どもたちの生活の様子を継続的に取り上げるなどして、他国への関心を高め、その生活や文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.100-101 ■ 5年 p.46-47 他
4 基礎的な知識・技能の習得を図る	<ul style="list-style-type: none"> ■ Hop!, Step, Jump! という段階を踏んだ各 Unit の学習で、基礎的な知識及び技能を着実に習得できるようにしている。習得にあたっては、それに応じた言語活動を伴うように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体
5 思考力・判断力・表現力を養う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit に、言語活動を行う Let's try. と Plus One を設け、Plus One では、Let's try. で扱った話題を別の相手に伝えたり、既習表現を加えてさらに詳しく相手に尋ねたりすることで児童の思考力・判断力・表現力を養うよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.39 他
6 主体的に学習に取り組む態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年の目標やテーマ、各 Unit で「できるようになること」や学習の流れをわかりやすく示し、児童が主体的に学習に取り組む態度を養うように配慮している。 ■ 「できるようになること」を示したページの右には、「英語の学び方」欄があり、外国語学習に欠かせない姿勢を記している。どう学びたいかを書き加えられるため、主体的な学習につながる。 ■ Unit の話題を自分のことに引きつけて考えられるように、About You という問いを設け、主体的な学習を促すように配慮している。 ■ 紙面に児童の発話例がセリフとして記されているが、活動に必要なすべてのセリフを示さず、児童の考える余地を残しており、主体性を育むことができる。 ■ 自分の表現したいことを巻末の All About Me で一覧にできるほか、別冊の Picture Dictionary では自分が使いたい語彙を追加できる書き込み欄を用意するなど、主体性を育むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.8-9、p.17 他、6年 p.8-9 他 ■ 5・6年 p.9 ■ 5年 p.17 他 ■ 5年 p.22-23 他 ■ 巻末、別冊

2. 学習指導要領との関連

[1] 教科の目標や内容との関連

観点	内容と特色	該当ページ例
1 外国語の知識を理解し、活用できる基礎的な技能を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit の Step で、英語の知識を理解し、活用できる基礎的な技能を身に付けられるようにしている。Step では、ストーリーを通して学習する表現に気づくことから始まり、聞く活動→チャンツによる練習→話す活動→読む・書く活動と、スモールステップを踏んだ活動が組まれている。 ■ まとめの活動を各学年に3箇所設定し、Unit で学んだ表現を「世界の友達」で受容し、You can do it! で発信できるように工夫している。 ■ 各 Unit に Small Talk を新設し、アニメの問いかけに応じる活動で既習表現の活用と定着を促している。また、相づちを扱い、対話の続け方に慣れることができるようにしている。 ■ 各 Unit の Jump! の Phrase Hunt では、既習表現を活用できるよう、クラスで情報を共有する活動を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.18-19 他 ■ 5年 p.46-49 他 ■ 5年 p.16 他 ■ 5年 p.23 他
2 聞いたり話したり読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちを伝え合えることができる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 聞く・話す活動では、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた活動になるよう指示文を工夫している。聞く活動は場面設定が、話す活動はコミュニケーションの目的が明確である。 ■ 読む・書く活動は、5年生から扱う領域であることから、まずは十分に聞いたり話したりして慣れ親しんでから、文字→単語→語句→文と段階を踏んで無理なく学べるよう工夫している。 ■ ゲームではなく、言語活動を通して、自分の考えや気持ちを伝え合えるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体

<p>3 外国語の背景にある文化に対する理解を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit の Jump! に Let's watch and think. のコーナーを設け、Unit で扱う題材に関連して世界の 12 か国の小学生が映像で登場して、各国の文化に対する理解を深められるようにしている。 ■ 「世界の友達」では Let's watch and think. と同じ小学生が登場し、それぞれの国の小学生の考えや暮らし方に触れることで、文化の違いや共通点を見出すことができるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.22 他 ■ 5年 p.46-47 他、6年 p.40-41 他
<p>4 他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教科書の巻頭の Let's Start 1 や別冊の Picture Dictionary で、コミュニケーションでは相手意識をもつことが大切であることを示すなど、他者に配慮する態度が身に付くようにしている。 ■ 各 Unit の話す活動で、相づちなど Response が大切であることを示唆しているのも、他者に配慮する態度を養うことにつながる。 ■ 「友達のことをもっと知ろう」というコミュニケーションの目的を意識した言語活動が多く位置付けられており、主体的に友達とコミュニケーションを図ろうとする態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年 p.10-11、別冊 p.24-25 ■ 5年 p.21 他 ■ 5年 p.55 他
<p>5 「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5領域について、バランスのとれた力を養う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5 領域の言語活動がバランスよく配置されており、話すことも発表に偏るようなことはない。また、全 Unit とまとめには、重点化して指導・評価する領域がアイコンとともに示されている。このことは、指導と評価の一体化を実現するうえで役立つ工夫といえる。 ■ 「できるようになること」は、学習指導要領が示す 5 領域の目標の内容に合致しており、わかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年目次他 ■ 5・6年 p.8-9
<p>(1) 聞くこと</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的や場面、状況などに応じて英語を聞くことを重視し、各 Unit の Story, Let's listen and point., Let's watch., Let's listen. や Let's watch and think. など、聞く活動を豊富に設けている。 ■ 各 Unit の Let's listen. では、語句や表現を聞き取る活動、必要な情報を聞き取る活動、短い話の概要を捉える活動を系統的に配置している。また、活動の形態も、絵を結びつける活動から聞き取ったことをメモする活動へ、やさしいものから徐々に難度が高くなるよう配置している。 ■ Let's watch and think. では世界各国の小学生が話す実際の英語が聞けるため、児童の興味関心を高めるほか、「世界の友達」では、思考を働かせて聞き取るための問いが工夫してある。 ■ 各 Unit には Small Talk の参考になるミニアニメがあり、既習表現をくり返し聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 5年 p.18 他、6年 p.16 他 ■ 5年 p.32 他、6年 p.20, p.40-41 他 ■ 5年 p.16 他
<p>(2) 読むこと</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5 年の教科書の最初にある Let's Start でアルファベットの大文字と小文字に触れ、Alphabet Time で文字の形を丁寧に導入し、音と文字の関係を認識する Sounds and Letters や、イラストから単語や文の読み方を推測する Fun with Alphabet の活動など、6 年の最後まで段階的にくり返しアルファベットに触れて自然と識別することができるように配慮している。 ■ Let's write and read. で、書いた文字や文を声に出して読むことに慣れるよう工夫している。 ■ 学年末には、SDGs に関連する「英語の物語」や「世界の友達」の教材で読む力を実感できるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.14-15、p.24-25、p.105-109 他 ■ 5年 p.53 他 ■ 5年 p.102-103 他、6年 p.92-93 他
<p>(3) 話すこと(やり取り)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit の Let's try. や Plus One では、誕生日にほしいものや好きな教科など、児童の生活になじみのある話題でやり取りを続けることができるよう工夫している。 ■ 相づちなどの Response を、別冊 Picture Dictionary の「心が通う受け答え」のほか、随所で積極的に示し、やり取りを続けられるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.29、p.39 他 ■ 5・6年別冊 p.24-25 他
<p>(4) 話すこと(発表)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit の Let's try. や Plus One、ゴールとなる Let's speak. で、人やものを紹介したり、自分のことを伝えたり、地域のことを発表したりする活動がバランスよく配置してある。 ■ Unit のゴールとなる Let's speak. では、「気をつけよう」という指示文が常にあり、互いに発表しやすい雰囲気を作ることが大切であると児童が理解できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.61、p.93 他、6年 p.17-21 他 ■ 5年 p.23 他、6年 p.21 他
<p>(5) 書くこと</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5 年の Alphabet Time 1～3 で、アルファベットの大文字と小文字の指導が丁寧にできている。4 線の背景が薄いブルーで塗られており、初学者が小文字を書く際に役立つ。 ■ Picture Dictionary の裏表紙にはアルファベット表があり、それぞれの文字の筆順を確認することができる。また、QR コードからは筆順を確認できる映像が見られる。 ■ 各 Unit の Let's write and read. で、語句をなぞったり、書き写したりする活動を系統的に行わせている。また、各学年の巻末の Alphabet Time には「単語や文の書き方」を示したページがあり、正しい字形で、語と語の区切りに注意しながら英文を書くことに慣れることができ、文構造や語順への気づきにもつながる。 ■ Let's write and speak. では、例文を参考に文を書いて発表し合うことができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.24-25、p.34-35、p.44-45 ■ 別冊 ■ 5年 p.53、p.61、p.104 他、6年 p.99 他 ■ 5年 p.65、p.97 他
<p>6 英語の音声・文字・語文などの知識を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 欄外の「発音」や Sounds and Letters で音声のルールに気づけるよう工夫してある。 ■ Alphabet Time で文字を丁寧に扱うとともに、Fun with Alphabet で楽しみながら文字に親しむことができるようにしている。 ■ 活動を通して語彙に親しむことができるようにしており、それを別冊の Picture Dictionary で整理しているため、語彙を着実に習得できる。さらに、別冊には「日本語と比べよう」や「MEMO」欄があり、英語の音声や語への理解が深まるよう促している。 ■ 6 年の Unit 5 では、生物の食物連鎖を題材にして「主語＋動詞＋目的語」の語順を扱うなど、文の知識について扱いを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年 p.54-55 他 ■ 5年 p.24-25、p.105-109 他 ■ 全体、別冊 ■ 6年 p.54

[2] 構成・配列・分量		
観点	内容と特色	該当ページ例
1 教科書全体の構成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習のテーマや目標が示されている。5年は自分、他者、地域、6年は日本、世界、将来という段階的なテーマで構成されている。また、学習到達目標を示したページには、次学年の目標として6年生や中学校の目標が併記されているため、見通しがもちやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体
2 教材配列の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教材が平易なものから段階的に難度が高くなるように配列され、全体で系統性が考えられている。 ■ 6年では、最終学年にふさわしく、小学校生活をふり返って印象に残ることや中学校でしたいことを伝え合う活動を組むなど、児童の生活や興味関心に即した教材配列になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 6年 p.81、p.91 他
3 分量	<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童の発達段階に即した、適切な分量である。Unit は各学年 8 つで、負担なく学習できる。 ■ 教科書で触れる語彙を 712 語に設定している。発信語彙と受容語彙の考え方を意識し、重要な語彙については聞く活動も含めて何度も触れられるので、着実な定着を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体
4 全体を貫くストーリー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年を通して教科書が一貫したストーリーになっている。国際色豊かで個性豊かな子どもたちが、交流し、成長していくストーリーである。児童は、身近な存在として登場人物に親しみ、意欲を持って学習を進めることができる。 ■ ストーリーの内容は、身近な学校生活を題材にしなが、交流の楽しさや思いやりの大切さが伝わる、心の成長につながるものになっている。 ■ ストーリーには場面設定やキャラクターの動き、表情を大切にアニメーションの動画が用意されており、コミュニケーションの目的や場面、状況がわかりやすくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体
5 Unit の構成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit は Hop! → Step 1 → Step 2 → Jump! という構成である。それぞれ 1 見開き (2 ページ) ずつで共通の構成になっており、基礎的な知識・技能の習得と活用から思考力・判断力・表現力を養う言語活動へといった学習の手順がわかりやすい。 ■ Hop! は見開きのイラストや写真で、児童の題材に対する興味関心を高める。Unit のストーリーを視聴して概要を捉えることができる。 ■ Hop! では、Unit の学習の目標を「～できる」という Can-Do 形式で上部に示すとともに、Unit 全体の学習の流れを示している。 ■ Step は、ストーリーの一部に焦点を当て、主な表現に気づかせた後、Let's listen. (聞く活動) → Let's chant. (口慣らし) → Let's try. (話す活動) → Plus One (話す活動) → Let's write and read. (書く・読む活動) と、スモールステップで表現の着実な習得と活用を図っている。 ■ Jump! は、Step で習得した表現やこれまでの既習表現を使って、Hop! で示した目標「できるようになること」の言語活動に取り組む。Let's listen. や Let's read. で聞いたり読んだりしたことをモデルとして、Let's write and speak. の書いたり話したりする活動で、自分の考えや気持ちを伝え合ったり発表したりすることができる。 ■ Jump! には、Let's watch and think. のコーナーがあり、Unit の題材に関連して外国の文化に対する理解と見方・考え方を深められるようにしている。また、Unit の最後の「ふりかえろう」では、Unit の重点化領域でできるようになったことを児童自身に評価させるほか、工夫したこと・次に生かしたいことを記述させ、学習の見通しがもてるよう工夫している。 ■ Unit 内の読み書きについては、過度な負担にならないよう、段階的に設定されている。例えば、5年の前半から語や文を 4 線に書くのではなく、4 線の横に絵カードを置いて読む活動のように初歩的な内容から負担なく始められるように工夫している。 ■ 5年前半にある Alphabet Time 1～3 は、アルファベットの大きい文字と小さい文字の読み書きに徐々に慣れることをねらっている。 ■ 5年と 6年巻末の Alphabet Time にある Sounds and Letters では音と文字の関係を理解し、Fun with Alphabet では、楽しみながら単語や文の読み方に慣れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 5年 p.16-17 他、6年 p.14-15 他 ■ 5年 p.17 他、6年 p.15 他 ■ 5年 p.52-55 他、6年 p.24-27 他 ■ 5年 p.56-57 他、6年 p.28-29 他 ■ 5年 p.56 他、6年 p.28 他 ■ 5年 p.21、p.29 他 ■ 5年 p.24-25、p.34-35 他 ■ 5年 p.105-109 他、6年 p.100-107 他
6 まとめの活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「世界の友達」では、世界各国の小学生が自身の生活や文化を日本の子どもたちに話しかける映像が視聴できる。各国の子どもの英語を聞きながら、外国の文化への理解を深められる。 ■ You can do it! では、各学期の既習表現を使った言語活動を設置している。子どもたちの話す、書く力を見取り、評価がしやすい工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.46-47 他、6年 p.40-41 他 ■ 5年 p.48-49 他、6年 p.42-43 他
7 学びのスタートの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 巻頭の「この教科書の構成と使い方」と「できるようになること」で、児童が学習の仕方を理解し、主体的に学習を進めることができるようにしている。 ■ 5・6年とも Let's Start を設け、中学年の外国語活動や前学年までの学習を確認できるようにしている。取り組みやすい活動から始めることで、児童が自信をもてるように配慮している。 ■ Let's Start では、コミュニケーションをするうえで心がけたい態度について扱う「いつも「たいせつ」」「言葉の準備運動」を置き、意欲が高まるようにしている。 ■ 外国語の学習で大切にしたい「学び方」と「いつも「たいせつ」」の内容はいつでも参照できるように、折りたたまれたページを引き出せるようにして工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年 p.6-9 ■ 5年 p.10-15、6年 p.10-13 ■ 5・6年 p.10-11 ■ 5・6年 p.9

8 Unit を支える教材・資料	<ul style="list-style-type: none"> ■ Unit を支える教材として、「英語の物語」、「言葉について考えよう」、「災害と英語」、「早口言葉」、「英語の歌を楽しもう」「おすすめの絵本」などがある。これらを Unit とともに扱うことで、英語圏の文化に興味をもたせたり、他教科等の学習と関連させたりして、より豊かな学びが実現できる。 ■ 各学年に別冊の Picture Dictionary が付いていて、カテゴリごとに語彙を整理している。Unit の学習の際に、児童が言いたい語やこれまで触れてきた語を探して使えるようになっている。また、自分に必要な語を書き込める欄があるため、主体的に取り組むことができる。 ■ 巻末の All About Me では自分が表現したいことを書き溜めて、学習の成果を一覧できる。切り離せるので、6年の新学期に使ったり、中学1年の自己紹介で使ったりもできる。 ■ ミシン目で切り取って使うことができる厚紙の語彙カードを用意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.66-67 他、6年 p.30-31 他 ■ 別冊 ■ 5・6年巻末 ■ 5年巻末
------------------	---	---

[3] 今日的な教育の課題への対応

観点	内容と特色	該当ページ例
1 主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各 Unit の Hop! では学習の Goal と学習の流れを示すとともに、Jump! の「ふりかえろう」では、その Unit の重点化領域の Goal をどの程度達成できたか児童自身に評価させる。工夫したことや次に生かしたいことを考えて記述させることで、主体的な学びを進められるよう配慮している。 ■ 各 Unit の Jump! にある Let's speak. や Let's write and speak. では、グループでの協働学習が活動形態の中心になっており、対話的な学びが強く意図されている。 ■ 各 Unit の Jump! にある Let's watch and think. では、外国の生活や文化についての話し合いを促し、考えをさらに深める課題を示している。対話的な学び、深い学びにつながる活動である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.17-23 他、6年 p.15-21 他 ■ 5年 p.23、p.87 他、6年 p.39 他 ■ 5年 p.42 他、6年 p.38 他
2 カリキュラム・マネジメントへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他教科等と関連できる所にマークを付し、教科横断的な学習ができるように配慮している。 ■ 「言葉の準備運動」や「言葉について考えよう」で国語との関連を図っている。5年の「心をつなぐ言葉」では、伝える相手が変わることで言葉が変わるのは、英語も日本語も同じだということに気づかせている。この直前の Unit 7 で would like という丁寧な言い方を学習したことを踏まえたもので、適切な内容と教材配列になっている。 ■ 国語や書写のアルファベットやローマ字の学習との関連に配慮して、光村図書が発行する国語、書写の教科書のローマ字表やフォントと統一している。 ■ 5年 Unit 6 は、登場人物の兄で下肢に障害をもつ Dan と子どもたちとの交流の場面で、ユニバーサルデザインに注意を向けるなど、道徳との関連を図れる内容になっている。 ■ Unit のゴールとなる活動以外は、10分程度の短時間学習でそのまま行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.79、6年 p.53 他 ■ 5年 p.11、p.88 他、6年 p.30 他 ■ 全体 ■ 5年 p.68-69 ■ 全体
3 児童が英語にくり返し触れる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年冒頭の Let's Start で、小学校中学年の外国語活動で親しんだ英語の表現にくり返し触れることができるようにしている。 ■ 5年 Unit 1 で What sport do you like? という表現に触れた後、Unit 3 で What subjects do you like? という表現を使ったり、6年 Unit 1 の Step 2 で、5年で触れた Can you...? という表現を使ったりするなど、児童が英語の表現にくり返し触れるように配慮している。 ■ Jump! のゴールの言語活動のセリフは、その Unit で初めて学習する表現だけでなく、既習表現も含まれており、学習した表現にくり返し触れながら活動ができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.12-13 ■ 5年 p.16-23、p.36-43 他、6年 p.19 他 ■ 5年 p.43 他、6年 p.21 他
4 外国語活動からの接続と中学校への接続	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年の Let's Start で外国語活動からの円滑な接続を図っている。外国語活動で学習したことを短時間で効率よく復習できるようにしている。 ■ 「6年生でできるようになること」には中学校の目標があり、中学校への繋がりを意識できる。 ■ 別冊の Picture Dictionary には「外国語活動のふりかえり」や紫色の足跡マークがあり、中学年の学習を生かせるようにしている。 ■ 6年の Unit 7 は、中学校生活への期待を児童にもたせる内容で、中学校への接続に配慮している。この Unit の Let's watch and think. の映像では、本物の中学生が英語で学校生活を紹介しているため、中学校の英語の学習や学校生活に意欲がもてる。 ■ 6年に「中学校に向けて 英語の学習を続けていこう!」を設け、中学校への接続を図っている。 ■ 5・6年巻末の All About Me は、児童が小学校での学びの記録として自分の成長をふり振り返り、6年生や中学校1年生の自己紹介に使うなど活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.12-13 ■ 6年 p.9 ■ 別冊 ■ 6年 p.74-81 ■ 6年 p.108-109 ■ 5・6年巻末
5 家庭や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6年の Unit 3 で家の手伝いを題材にするとともに、5年の Unit 5 で家族のよいところに着目する題材を扱っている。家庭が大切なものであることに児童が気づくように配慮している。 ■ 5年の Unit 8 で、地域のよいところを発表する活動を行う。グループでよいところを話し合うことで、地域への関心や愛着が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.58-65、6年 p.32-39 ■ 5年 p.90-97
6 持続可能な開発目標 SDGs に関する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「英語の物語」に SDGs の目標を添え、地球規模で課題を解決すべきであることに気づけるようにしている。また、Let's watch and think. にも関連する SDGs の目標を添えている。 ■ 巻末の表紙の裏に SDGs の意図を記し、授業で関連させて扱えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.102-103 他、6年 p.96-97 他 ■ 裏表紙

7 安全・防災に関する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各学年に「災害と英語」を設け、聞く活動を通して防災への意識を高められるようにしている。 ■ 阪神・淡路大震災の直後に小学校の先生がつくった「しあわせ運べるように」という歌が、英語になって国内外で歌われていることを紹介し、安全・防災への意識が深まるようにしている。 ■ 防災教育に関する専門家の校閲を受けたことが明記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.67、6年 p.31 ■ 6年 p.83 ■ 奥付
8 QRコードコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 音声やアニメーション、実写のモデル映像など、学習を広げ深めるコンテンツを、紙面に付したQRコードを通して利用できるようにし、家庭学習にも活用できるようにしている。 ■ 5・6年合計611点の学習に必要なすべてのコンテンツを収録している。その内訳は、アニメーションが201点、実写動画が49点、音声329点、画像・PDFが18点、教科共通コンテンツが14点である。 ■ 感染症対策や防災の意識を高める動画「教科共通コンテンツ」に、教科書の裏表紙のQRコードからアクセスできる。内容は先生や保護者の安心につながるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5・6年 p.13 他 ■ 全体 ■ 裏表紙

[4] 題材の選定

観点	内容と特色	該当ページ例
1 伝統文化を尊重し、国や郷土を愛する心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 Unit 8の「自分の町を紹介する活動」は、自分の郷土に関心や愛着をもつきっかけになる。 ■ 6年 Unit 2で、ひな祭りや七夕など、日本の伝統行事を外国人の人に紹介する活動を行うようにしている。児童が、日本の伝統文化への関心を高められるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.90-97 ■ 6年 p.22-29
2 国際理解を深め、国際協調の精神を養う	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 Unit 3で、各国の教科を知って自分が学びたい教科を考える活動を通して、児童に身近な話題で国際理解を深めることができる。また、6年 Unit 6の行きたい国を紹介する活動や、6年まとめ1のMe on the Mapの活動を通して、児童は国際理解を深めることができる。 ■ 各UnitのLet's watch and think.で、Unitの題材に関連して国際理解を深めることができる。「世界の学校の教科」「世界の小学生の1日」「世界の料理」「世界の小学生のあこがれの人」など、さまざまな情報を得ることで国際協調の精神を養うことができる。 ■ 「世界の友達」は、教科書に登場する12か国の小学生一人一人に焦点を当てている。その国の生活や文化への理解が深まり、異なる文化をもつ人と仲良くする考えを自然に育むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.36-43、6年 p.42-43、p.62-69 ■ 5年 p.32、p.42 他、6年 p.28、p.38、p.68 他 ■ 5年 p.46-47 他、6年 p.40-41 他
3 個人の価値を尊重し、人権を大切にすることを意識を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年のまとめ2で金子みすゞの詩の内容を考える活動を配置している。ここには「できることもできないことも、その人の大切な個性だよ。」という児童への語りかけがある。この語りかけは個性を尊重し、人権を大切にすることを意識を育てるきっかけになる。 ■ 5年 Unit 5と6では車椅子バスケットボールの選手が登場人物の兄として登場する。こうした人物設定も、個人の価値を尊重し、だれもが参画できる社会を作ろうとする姿勢を育てる。 ■ イラストや写真で登場する人物に性別・人種・身体的特徴などによる極端な偏りがないよう、配慮している。また、家事をする男性や働く女性の姿などを、教科書紙面で積極的に取り上げている。これらは、個人の価値の尊重と人権を大切にすることを意識の育成につながる。 ■ 6年生の巻頭口絵には、オンラインミーティングの写真が載っている。ここには人種や性別、年齢など多様な人々が載っており、英語を通して世界中の人々とつながりあえる時代であると感じさせる。さらに、左下の写真には、同性の保護者とその子供が載っており、世界には多様な家族のあり方が存在するというところに気づくことができる。 ■ 人権教育に関する専門家の校閲や、外国人児童生徒等教育に関する専門家の校閲を受けたことが明記されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.78-79 ■ 5年 p.58-65、p.68-75 ■ 5年 p.46-47 他、6年 p.32-39 他 ■ 6年巻頭他 ■ 全体
4 適切な勤労観・職業観がもてるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6年 Unit 7は、自分がなりた職業を題材にしている。児童が働くことの意義に気づき、勤労を重んずる心を育てることにつながる。Unit 7 Jump!の言語活動で、それぞれの将来の夢を応援し合うことを呼びかけているのも、適切な職業観をもたせるうえで有効な活動である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6年 p.74-81

3. 使用上の配慮・工夫

[1] イラスト・音声・動画などについての配慮や工夫

観点	内容と特色	該当ページ例
1 イラスト・写真	<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童が内容を推測しやすいよう、写真やイラストがふんだんに使われている。特に各UnitのHop!の見開きのイラストや写真は全体で統一感があり、場面や状況も推測しやすい。ストーリーの登場人物もかざらない等身大の小学生らしく、児童の心を捉えるものになっている。 ■ 世界の12か国の小学生の写真が国際理解に役立つ。また、各UnitのゴールやまとめのYou can do it!の活動が写真と動画で示されていて、言語活動の様子が具体的にイメージできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.50-51 他 ■ 5年 p.43、p.79、p.98-99 他
2 音声・動画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各Unitのストーリーがアニメーションになっていて、教科書紙面のQRコードから参照できる。また、学習に必要なすべての音声・動画がQRコードから参照できる。 ■ Let's watch and think.と「世界の友達」にも動画が用意されているので、外国の生活や文化を理解しやすい。役者によるフィクションと異なり、実際の生活や文化が実感できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.16-17 他 ■ 5年 p.32、p.46-47 他

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全 Unit にオリジナルのチャンツを用意している。英語のリズムやイントネーションが自然に身に付く音声教材である。また、5年には都道府県に関するチャンツが用意されている。 ■ 全 Unit の Hop! に英語の歌が用意されており、英語圏の文化や英語のリズムに触れることができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.18、p.100 他 ■ 5年 p.16、p.26 他、6年 p.14、p.22 他
[2] ユニバーサルデザインの観点から見た配慮・工夫		
観点	内容と特色	該当ページ例
1 特別支援教育等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別支援教育、弱視の専門家の校閲や、学習者のユニバーサルデザインに関する専門家の校閲を受けたことが明記されており、すべての児童にとってわかりやすい教科書になるよう配慮されている。 ■ 各 Unit のレイアウトが統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置し、すべての児童が迷わずに学習に取り組みめるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体
2 カラーユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受けたことが明記されており、色覚特性をもつ児童が学習に支障を来すことがないように、十分な配慮がなされている。 ■ 色覚特性をもつ児童に配慮し、色だけでなく線の種類や濃淡でも識別できる紙面にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体
3 表記・表現の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語の表記は当該学年までの漢字を使用し、当該学年の配当漢字はすべて振り仮名が付されている。英語の文は不自然な位置で折り返されており、読む際や書き写す際の負担軽減になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体
4 文字の書体・大きさ・文字組等への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童が学習しやすい 4 線の幅に対応した英語のフォントを独自に開発して使用している。児童が文字を書き写す活動を行うことを考えた配慮が行き届いている。 ■ 英語の文字は、発達段階や教材の内容に応じて、書くことの教材では意図して大きな文字を使用するなどの配慮がなされている。また、日本語の文字は、ユニバーサルデザイン書体を用いている。これは、弱視の児童にも読みやすく、書き文字としても正しい形の丸ゴシック体である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体
5 表紙・印刷・製本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ■ 判型については、横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せることができる横幅の広い AB 判を採用しており、読みやすさ、見やすさに配慮している。 ■ 表紙は耐久性のある PP ラミネート加工を施して折れにくく、よごれてもふきとりやすい。また、表紙絵は、英語学習の楽しさが伝わる、明るく躍動的な絵を採用している。 ■ 本文用紙は、軽くて裏映りしにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙を使用している。原料や製法については、環境の負担を少なくしている旨が明記されている。 ■ 環境と健康にやさしいエコマーク認定の植物油インクで印刷されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 表紙 ■ 全体 ■ 全体

4. デジタル教科書に関する工夫

観点	内容と特色	該当ページ例
1 「学習者用デジタル教科書」について	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「学習者用デジタル教科書」には、総ルビ、背景・文字の色変更、読み上げ時の文字のハイライト表示、スタンプ、紙面の文字の読み上げ機能、速度調整機能などが備わっており、個別最適な学びを実現できる。このような機能は、特別な支援を要する児童にとっても役立つものである。 ■ QRコードから見られる学習に必要な音声や動画などのコンテンツは、「学習者用デジタル教科書」でもすべて見られるため、授業でも家庭でも児童のペースで学習できる。 ■ 紙面にある英語の箇所の読み上げ機能には、ネイティブのナレーターの朗読音声を収録しており、学習の参考にできる。 ■ 児童が表示したページや表示した回数、時間などを自動で記録する機能があるため、指導者が個別の指導に役立てることができる。 ■ 教科書紙面のデータを、現行版の光村図書の学習者用デジタル教科書と比べて軽量化し、紙面の読み込み速度の約 85% 短縮を実現しており、授業を止めることなく進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体
2 「学習者用デジタル教科書 + 教材」「指導者用デジタル教科書 (教材)」について	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「学習者用デジタル教科書 + 教材」には、「学習者用デジタル教科書」の機能に加え、チャンツの練習用の動画や、自習コーナーと称する家庭学習で活用できるコンテンツもある。 ■ 「学習者用デジタル教科書 + 教材」の音声や映像は、速度調節や字幕の ON/OFF など、個の学習に応じた設定ができる。 ■ 「学習者用デジタル教科書 + 教材」には、学習内容のふりかえり機能がある。児童が記録した自己評価を、指導者と共有することもできる。 ■ 「指導者用デジタル教科書 (教材)」には、T サポートと称した指導者向けの評価支援機能がある。児童の学習状況を指導者が把握し、指導や評価に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体
3 ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ ICT 機器を取り入れた小学校の授業例を紹介する「ICT を活用しよう」というコーナーを設けている。ICT 機器の積極的な活用や、デジタル教科書を使った授業の促進につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 5年 p.49、p.89 他、6年 p.21、p.61 他